

問題 次の文章を読んで、後の問いに答えましょう。

〔※1〕 賈島は、科挙という試験を受けるために、都である 長安にやってきて、ロバに乗りながら詩を作っていると、「僧は推す月下の門」の〔※2〕句ができました。しかし、この「推す」を改めて「敲く」という文字にしたいと思いました。そこで、手を動かして「推す」と「敲く」の仕草を試してみたものの、なかなか決まらずに〔イ〕まよってしまいました。

そうしているうちに、思わず都の身分の高い役人である韓愈の列にぶつかってしまいました。

そこで賈島は〔ウ〕謝り、列にぶつかってしまった理由を詳しく説明しました。韓愈は落ち着いた〔エ〕たいどで「敲」という文字が良い。」と言いました。そのまま二人は、乗り物を並べて進みながら、詩についてしばらく話し合いをしていました。



〔出典『唐詩記事』巻四十より〕

①は、五十歩百歩（ごじつぽひゃつぽ）
 ②は、推敲（すいこう）
 ③は、完璧（かんぺき）

問一 文章中の 線部について、漢字の読みをひらがなで、ひらがなは漢字に直して 〇 に正しく書きましょう。送りがなが必要なものは送りがなも書きましょう。

(ア) 句	く	(イ) まよって	迷って
(ウ) 謝り	あやまり	(エ) たいど	態度

問二 この文章にある出来事から「推敲」という故事成語が生まれました。「推敲」の意味として最も適するものを次の中から一つ選び、番号で答えましょう。

- ① 小さな差はあるが、たいした変わりはないこと。似たり寄ったり。
- ② 詩や文章を良くしようと、何度も考え練り直すこと。
- ③ 欠点や不足がなく、非常に立派なこと。

②

問三

次の□に入る故事成語として適切なものを、あとの①～③の中から選び、番号で答えましょう。

昨日言っていたことと、今日言っていることは

□③

している。

- ① 守株 しゅしゆ
- ② 助長 じゆちやう
- ③ 矛盾 むじゆん

- ① 守株…いつまでも古い習慣を守るばかりで進歩がないこと。
- ② 助長…不要な力添えをして、かえって害になること。
- ③ 矛盾…物事の道理が一貫しておらず、つじつまが合わないこと。

問四

- ① 目を覆う…目をふさぐ。
- ② 目を閉じる…目をつぶる。
- ③ 目を細める…うれしそうにほほえみをうかべる。

の①～③の中から選び、それぞれ

- (2) 祖父は □③ 孫の様子を見ている。

- ① 目を覆って
- ② 目を閉じて
- ③ 目を細めて

- (1) 展望台から見える景色の美しさに □① 。

- ① 息をのんだ
- ② 息を吐いた
- ③ 息を切らした

- ① 息をのむ…おそれや驚きなどで一瞬息を止める。
- ② 息を吐く…ためていた息をはく。
- ③ 息を切らす…運動などをして、せわしく呼吸をする。

問

- ① 棚からぼた餅…思いがけない幸運を得ること。
- ② 石の上にも三年…つらくて大変なことでも、がまんしていれば、やがて成功するものだ。
- ③ 病は気から…病気は気の持ちようで、重くもなれば軽くもなる。

- (1) □② というし、あせらずに練習を続けていこう。

- ① 棚からぼた餅
- ② 石の上にも三年
- ③ 病は気から

- (2) 彼が英語も話せるようになったら、もう □① だ。

- ① 鬼に金棒
- ② 犬猿の仲
- ③ 馬の耳に念仏

- ① 鬼に金棒…強いものがさらに強さを加えること。
- ② 犬猿の仲…何かにつけていがみ合うような仲の悪さ。
- ③ 馬の耳に念仏…言い聞かせても、その価値が分からないさま。